

「生徒代表 喜びの辞 未来への誓い」

新型コロナウイルス感染症まん延により、いまだ収束せず、コロナ禍の厳しい状況にある中、医療関係者をはじめ、この困難を乗り越えようと日々尽力されているすべての方々、そして、今日ここにお集まりの皆様、本日は誠に有難うございます。こうして九十周年 記念式典が行えたことに、生徒を代表して、心より感謝を申し上げます。

世界中が、日常の中の「別の不自由さ」を体験し、見えない敵と戦う 恐ろしさを痛感した不安な毎日。

校内での マスクの 絶対着用や、黙食という閉塞感のある 学校での小さな拘束や、タブレットを活用した リモート授業を受けるといった 新しい経験もしています。

今年は、2020 東京オリンピック ・パラリンピック大会が 開催され、同年代の活躍、次世代の若い力が爆発し、毎日が感動の連続でした。日本人の持つ、おもてなしの心が 色々な場面で見られ、自国開催での オリンピックの 素晴らしさを実感しました。その反面、日に日に増え続ける 新規感染者数が報道されるたびに、新しい生活様式を通して「耐える 我慢する」という、継続しても、簡単に結果が出ないことを 受け入れなければならない現状には、苦しさや辛さが増す一方です。当たり前だと思ふ日常は、みんなの 努力や協力で成り立っていることを痛感しています。

振り返ると、十年前は、東日本大震災という未曾有の災害により、私たちは深い苦しみと 悲しみの中にありました。しかし 長い時間をかけて 立ち上がる強さを知りました。依然として全国各地では自然災害のより甚大な被害が続いています。でも、復興という光に向かって進み続ける多くの力によって、絶望と悲しみから少しずつ立ち上がる逞しさを感じた十年間でした。そして、その記念すべき本日。私は、華陽フロンティア高校 九十年の節目に 立ち会わせていただき、感激と同時に、ここまでの九十年を これから先の未来に向けて、繋げていく責務を感じています。

感謝

ありがとうございます。これは、華陽フロンティア高校のすべての生徒の思いです。

定時制定時制生徒会長 小木曾 龍仁

本校は、昭和六年、岐阜県立 岐阜 夜間中学として 開校されてから、幾多の変遷を経ながら、昭和・平成・令和という 激動の時代に輝かしい功績を重ねてきました。時代とともに教育内容も変わり、現在は 定時制・通信制の中心校として 全国に その名が伝わっています。私たちは その学び舎で、明日への希望に向かい、個性を磨き日々鍛錬しています。その歴史を紡いでくださったのは、「働きながら学ぶ」という、不撓不屈の精神で、苦難に立ち向かわれた先輩方です。

九十周年記念の ロゴマーク、華のモチーフの、水引で模られた 花びら一枚一枚は、校名は変われども、母校を思う 諸先輩方の温かい心を 示し、今日こうして受け継がれてきた 伝統と絆のバトンが、今を生きる私たちに渡された気がしています。私たちは、華陽フロンティア高校の生徒であることを誇りに思います。

時勢に翻弄され続けてきた 約二年間ですが、今日、こうして 記念式典が予定通り 開催できたことに 感謝せねばなりません。九十年の歴史と伝統を、次世代へ受け継いでいかねばなりません。

来年から、新校舎の改築が始まり、西鶉の地に新しい校舎が 誕生します。

岐阜市京町から、大縄場、そして、西鶉で始まった 本校の歴史に また新しいページが加わります。

私たちは恵まれた環境で学べることに感謝し、これからもフロンティア精神を志として、本校を一層発展させていきたいと思ひます。

最後になりましたが、在校生を 代表して創立九十周年という 記念すべき時を迎えることが できましたことに感謝し、喜びの辞、未来への誓いとして 宣誓 致します。

生徒代表 通信制生徒会長 松浦 賢佑